



TITLE:

# 尿管異常開口の1例 付:本邦既報告例170例の統計的観察

AUTHOR(S):

嶺井, 定一

---

CITATION:

嶺井, 定一. 尿管異常開口の1例 付:本邦既報告例170例の統計的観察. 泌尿器科紀要 1963, 9(11): 603-607

ISSUE DATE:

1963-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/112487>

RIGHT:

尿管異常開口の1例  
付 本邦既報告例170例の統計的観察

久留米大学医部泌尿器科学教室（主任：重松 俊教授）

大学院学生 嶺 井 定 一

A CASE OF ECTOPIC URETERAL ORIFICE : WITH STATISTICAL  
OBSERVATIONS OF 170 JAPANESE CASES HITHERTO  
PUBLISHED IN LITERATURES

Teiichi MINEI

*From the Department of Urology, Kurume University Medical School**(Director Prof. S. Shigematsu, M. D.)*

According to Aito's report in 1963, there have been 149 cases of ectopic ureteral orifice in Japanese literatures.

I could collect 21 additional cases reported thereafter.

Case report : The patient, 5-year-old girl, was admitted to our clinic complaining of urinary incontinence.

A diagnosis was made preoperatively by means of cystoscopy, intravenous pyelography, retrograde pyelography, aortography, and renogram.

Uretero-neocystostomy has resulted in complete relief of urinary incontinence.

## 諸 言

尿管異常開口は Schrader (1674) が剖検により報告して以来, Thom (1928) は 185 例, Abeshouse 等 (1943) は 249 例, Burford 等 (1949) は 427 例, Ellerker (1958) は 494 例を文献より集めている。本邦では長沢 (1927) が剖検により報告し, 高橋・市川 (1932) が臨床例第 1 例を発表して以来, 志田 (1948) は 29 例, 岩崎 (1954) は 60 例, 仁平等 (1960) は 81 例, 松村等 (1960) は 109 例, 相戸 (1963) は 149 例を文献より集め考按を加えている。我々の教室では松浦 (1955), の報告例がある。かように尿管異常開口は最近ではそれほど稀な疾患ではなく, 著者も最近矮小腎を伴った 1 例を経験したので報告すると共に, 若干の文献的考按を加える。

## 症 例

患者：田○鶴○, 5 才 6 カ月, ♀.

初診：昭和36年 8 月 7 日。

主訴：尿失禁。

家族歴及び既往歴・特記すべき事はない。

現病歴：生来, 昼夜の別なく常に下着が尿で濡れるのに気づき, 下着を取換えてもいつの間にか濡れている様な状態であつた。即ち正常の排尿があるにもかかわらず極く少量の尿失禁が続いている。4 才の時, 当科を訪れ, 尿管異常開口と診断された。排尿回数は昼 6 回夜はない。昭和36年11月30日入院。

現症：体格中等度, 發育良好, 両側腎触れず肝, 脾も触れない。全身状態にとくに變化なく, 外觀的にはんらの異常を認めない。

局所々見, 外陰部は軽度発赤湿潤, 脛前庭尿管開口部よりの尿の濡出が認められる。

膀胱鏡所見, 容量約 100cc, 右尿管口が不明な他は異常がない。青排泄では左は 5 分で濃青となつたが, 右は 10 分迄排泄が認められず, 脛前庭尿管開口部よりの排出も認められない。

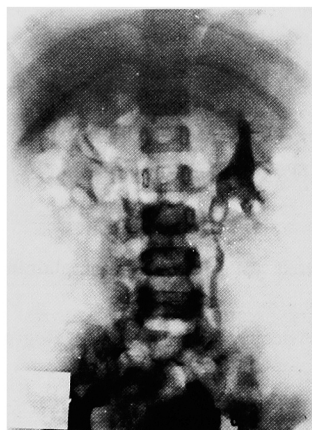
尿所見, ほとんど清澄, 反応は弱酸性。タンパク,

糖いすれも陰性。ウロビリノーゲン正常。沈渣に少数の白血球を認める以外に所見はない。

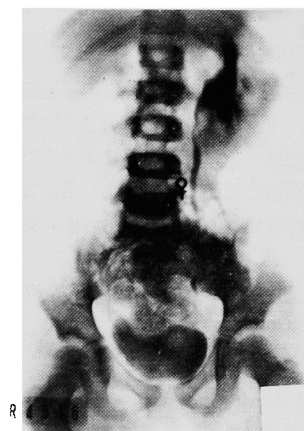
血液所見，赤血球400万，白血球7000，血色素70%（ザーリー）白血球百分比には異常はない。血清電解質にも異常は認められない

腎機能検査，P.S.P. 試験で2時間総値55.5%。レノグラム所見では，左に比し右は濃縮，排泄の低下が認められる。

レ線所見，(1)排泄性腎盂撮影像，左は正常であるが右腎は15分で造影剤の排出を認めない。20分で腎盂像らしき影像を描出した（第1図）圧迫帯除去後，膀胱部撮影に於て膀胱開口部への尿管の走行を描出した（第2図）(2)逆行性腎盂撮影像，膀胱開口部よ



第1図：I.P. 20'

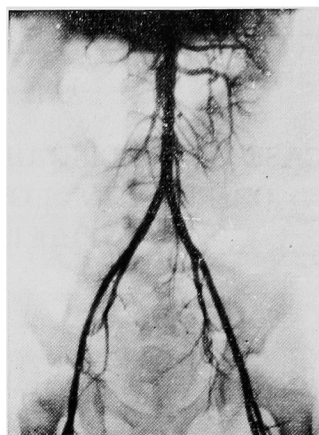


第2図：I.P. 15'

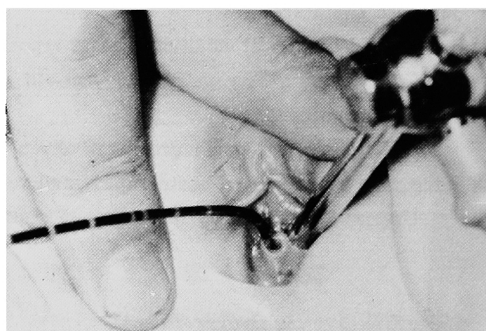
り尿管カテーテルを挿入し造影剤を注入して撮影したが右腎盂は影像を描出しえなかつた。(3)動脈撮影，左腎動脈は正常に描出されているが右腎動脈は狭小である（第3図）

臨床診断，以上の所見を総括して，右矮小腎兼尿管膀胱異常開口の診断を下した（第4図）

手術，昭和38年5月15日全身麻酔下に執刀を開始，右腹直筋旁切開でまず膀胱直上から切開し右膀胱周囲を剥離した。大動脈分岐部に沿って，腹膜下面に正



第3図



第4図

常大の右尿管があり，これをたどつて矮小腎を確かめたかつたが5才の幼児なる故手術的侵襲を小範囲にとどめ，又腎機能もいくぶん存在するため追求しなかつた。次いで膀胱部を開き右尿管口が無いのを確かめ尿管は可及的下方まで周囲組織より剥離しこれを結紮離断して Sampson 法により膀胱・尿管新移植術を施行し手術を終つた。

## 考 按

相戸は本邦文献より149例を蒐集し，統計的観察を行なっているが，著者は其の後21例を集めた（第1表）

(1) 分類に関しては Kilbane (1926) は7種に分類，Thom (1928) は6型に分類，岩下・三浦 (1947) は9種に分類しているが，一般

第1表 本邦に於ける尿管異常開口の報告例（相戸氏につづく）

No.	報告者	年令	性	患側	分類	開口部	腎尿管所見	合併症	手術
150	寛他	6才	♀	左	I	陰			腎摘出術
151	大森他	4ヵ月	♀	右	I	陰前庭	巨大尿管	右膿腎	未
152	任	4才	♀	右	I	陰	發育不全腎		腎尿管摘出術
153	任	12才	♀	右	I	不明	腎發育不全		腎尿管摘出術
154	島村	5才	♀	左	I	陰	左腎發育不全		左尿管膀胱新吻合術
155	島村	32才	♀	右	I	陰		①右膀胱三角部形成不全, ②双角子宮	未
156	千葉	2才	♀	右	III	膀胱頭部	過剰尿管	尿管瘤(右)	尿管膀胱再吻合術, 尿管瘤切除術
157	千葉	6才	♀	左	I	陰前庭			尿管膀胱再吻合術
158	三矢	23才	♀	左	I	陰	腎形成不全		左腎摘出術
159	中川	11才	♀	右	I	陰小陰唇裏側	發育不全腎		右腎摘出術
160	田村	12才	♀	左	III	陰前庭	過剰尿管(重複腎盂尿管)		過剰尿管切断し, 膀胱部移植
161	田村	3才	♀	右	I	不明	右發育不全腎		右腎摘出術
162	斉藤	17才	♀	左	I	陰	發育不全腎		左腎摘出術
163	松山	6才	♀	右	I		右發育不全腎		右腎摘出術
164	白井	18才	♀	右	I	陰	右腎形成不全		右腎摘出術
165	並木他	19才	♀	左	I	陰	矮小腎		左腎摘出術
166	田村	22才	♀	左	III	陰	過剰尿管		尿管異常開口腎盂尿管を含む腎上極切断
167	石沢	12才	♀	右	I		右矮小腎	摘出腎・膿腫形成	右腎摘出術
168	山口他	23才	♀	右	I	陰	右矮小腎		右腎摘出術
169	山口他	20才	♀	右	IV	陰, 内尿道括約筋部	完全重複腎兼完全重複尿管		尿管再吻合術
170	塩岡	17才	♀	右	I	陰		双角双頸子宮中隔	右腎摘出術
171	著者	5才	♀	右	I	陰前庭	右矮小腎		右尿管膀胱移植術

に Thom の分類が用いられている。著者の例は Thom の I 型に属する。本邦蒐集例及び本邦例 150 例以降, 又欧米の蒐集例は第 2 表に示す通りである。欧米では Abeshouse, Burford, Thom の文献に見られる如く, いずれも III 型が多く次いで I 型, V 型の順となつてゐる。本邦総例では I 型が多く, 次いで III 型で, V 型はわずか 2 例にすぎない。

(2) 年令別, 本邦総例では 1 才から 10 才までが全体の 49% を占め, 次いで 11 才から 20 才までが 26% で本疾患の約 80% は 10 才第で診断及び治療を受けている事になる (第 3 表)

(3) 性別, 欧米では男女比は約 1 : 2 となつ

第2表: 分類

Thomの分類	I型	II型	III型	IV型	V型	VI型	不明
Abeshouse	53	11	76	5	24	9	
Burford	13	2	94	0	15	12	
Thom	58	6	96	12	21	2	
仁 平	31	0	25	0	0	0	
松 村	68	0	28	0	2	1	
相 戸	105	0	36	0	2	1	5
本邦例第150例以降	17	0	3	1	0	0	
本 邦 総 例	122	0	39	1	2	1	

第3表：年令別

年 令	本邦例150以降		本 邦 総 数	
	男	女	男	女
1—10	0	8	0	80
11—20	0	9	0	43
21—30	0	3	3	38
31—40	0	1	1	3
41以上	0	0	0	0
	0	21	4	164

不明 2

第4表：性別

	例 数	男	女	不 明
Thom		75	196	6
Ellerker	494	128	366	
Burford 他		25	124	
本邦例第150例以降	21	0	21	
本 邦 総 例	170	4	164	2

ているが本邦総例170例では男4例に女164で1:41で女性が多い。本邦に於ては剖検による例が少ないので男性例が少ないものと思われる（第4表）

(4) 開口部位，尿管異常開口部位は腔が108例で最も多く次いで腔前庭の28例，尿道7例，子

第5表：開口部位

	本邦例第150例以降	本 邦 総 例
腔	11	108
腔 前 庭	3	28
尿 道	0	7
子宮及び子宮頸	0	3
尿 道 憩 室	0	1
小 陰 唇 裏 側	1	1
膀 胱 頸 部	1	1
内尿道括約筋	1	1
不 明	4	16

宮頸部3例，其の他は各々1例ずつとなつている（第5表）

(5) 患側，欧米の文献では尿管異常開口の左右別は略々同等に見られているが著者の調査で本邦例150例以降では右側がわずかに多くなつてはいるが，本邦総例では左側92例，右側68例となつている（第6表）

第6表：患側

	右	左	両 側	不 明
本邦例150例以降	13	8	0	0
本 邦 総 例	68	92	0	11

(6) 合併症，発生学的に見て本疾患に於ける泌尿生殖器合併は当然考へられるが，本例に於て見られた腎發育不全との合併が最も多く，本邦例150例以降21例に於ては12例に見られる。其の他過剰尿管4例，巨大尿管1例，双角双頸子宮・中隔腔1例となつている。

(7) 治療，Thom, Gloor は133例中40例に腎剔除術を35例に尿管膀胱移植を行なつている。松村の本邦蒐集例では104例中腎剔除60例で，尿管・膀胱移植はわずか5例にすぎない。著者の症例においては患側腎の機能は右側に比し機能は悪いが24時間尿量が120cc前後の排泄を見たのであえて摘出せず尿管・膀胱移植を行なつた。何れにしても手術的療法によらねばならないが，正常ないし正常に近い機能を保持している際は出来るだけ保存的手術によるべきである。

## 結 語

5才6カ月の女子で矮小腎を併う右尿管腔前庭開口の患者について症例を報告すると共に尿管異常開口について若干の考察を行なつた。

（稿を終るに当り御指導御校閲を賜つた恩師重松教授に深甚の謝意を表する。なお本論文の要旨は日本皮膚科泌尿器科学会福岡地方会第191回例会で発表した。）

## 文 献

- 1) Abeshouse, B. S. : Urol. & Cutan. Rev., 54: 7, 1950.

- 2) 相戸：皮と泌，25：189，1962.
- 3) Burford, C. E., Glenn, J. E. and Burford, E. H. : J. Urol., 62 : 211, 1949.
- 4) Ellerker, A. G. : Brit. J. Surg., 95 142, 1958.
- 5) 岩下・他：日泌尿会誌，38：332，1947.
- 6) 石沢：日泌尿会誌，54：106，1963.
- 7) Kilbane E. F. : Surg. Gynec. & Obst., 42 : 32, 1926.
- 8) 松村：日泌尿会誌，51：664，1960.
- 9) 松浦：皮と泌，17：330，1955.
- 10) 三矢：日泌尿会誌，53：607，1962.
- 11) 松山：日泌尿会誌，53：550，1962.
- 12) 仁平・他：泌尿紀要，6：449，1960.
- 13) 任：日泌尿会誌，53：423，1962.
- 14) 中川：日泌尿会誌，53：423，1962.
- 15) 中野・他：皮と泌，17：224，1955.
- 16) 並木：泌尿紀要，8：380，1962.
- 17) 日本泌尿器科学全書，5：1960.
- 18) 寛・他：日泌尿会誌，52：1042，1961.
- 19) 大森・他：日泌尿会誌，53：243，1962.
- 20) 志田：日泌尿会誌，39：21，1948.
- 21) 島村：日泌尿会誌，53：480，1962.
- 22) 齊藤：日泌尿会誌，53：490，1962.
- 23) 白井：日泌尿会誌，53：783，1962.
- 24) 塩岡：日泌尿会誌，53：236，1962.
- 25) Thom, B. Z. Z. Urol., 22 : 417, 1928.
- 26) 高橋・市川：皮尿誌，32：264，1932.
- 27) 田村：皮と泌，24：187，1962.
- 28) 田村：日泌尿会誌，53：261，1962.
- 29) 千葉：日泌尿会誌，53：489，1962.
- 30) 山口・他：泌尿紀要，9：51，1963.

内服による結石症の根本療法

# 腎石症に...

精製テルペン複合剤

# ロワチン

健保適用

10CC

5CC

カプセル30球

◎揮発油としての溶解作用

◎腎実質に対する充血及び利尿作用

◎平滑筋に対する鎮痙作用

◎抗菌性による消炎作用

等の薬理作用により結石の溶解あるいは自然排石促進の作用を有する

**文献進呈**

製造元 **ロワ・ワグナー社**  
西ドイツ・ベンスベルグ

発売元 **扶桑薬品工業株式会社**  
大阪市東区道修町2丁目50